

地域の方の地域生活を どのように支えるか？

宮崎直人

『繋がっているということ』

人と認知症を理解し
寛容な社会を目指すためのキーワード

なぜ、さわり・ふれるのか ～仮説～

- 失われていく世界とのつながり
- 失われていく自己
- 自分を探す旅
- 誰かと何かと繋がりたい 繋がっていたい
- 繋がっている事での安心するのではないか

『前提を考える』

昔々彼らはどのような扱いを受けていたのでしょうか

みなさんをご存知ですか？

過去に行われてきた介護？

- ◆手間が省けるからと、男性はブルー、女性はピンクの上下スウェットを平気で着させる専門職
- ◆誰が見ていようが場所さえも構うことなく、オムツ交換をする専門職
- ◆おむつを外すからと背面ジッパーのつなぎ服を着せる専門職
- ◆便が出ていることがわかっているにもかかわらず、おむつを交換しない専門職
- ◆ベットに高い柵をつけてその中に放り込む専門職
- ◆自分たちに不都合があるから薬で動けなくしてしまう専門職
- ◆外に出ていけないように、建物に閉じ込める専門職
- ◆井の中にご飯もおかずも薬も放り込んで食べさせる専門職
- ◆立ったまま、何も言わずに食べ物を口の中に放り込む専門職
- ◆できることであっても危ないからとやらせない専門職
- ◆洗髪しやすいからと男女かまわず短髪にする専門職

人の姿と認知症

• 姿の捉え方からスタート

どんな姿かと思っているかがその後の関わりや支援
(介護・ケア) に影響する

**視点 (姿の捉え方) は認識を創造し
認識は経験を創造する**

介護は誰に？

北海道新聞より

内閣府調査

- 調査時期 2012年9月、10月
- 調査対象者 1947年～49年生まれ
男女ほぼ半々の3500人
- 質問
『自分が要介護状態になった場合
誰に介護を頼みたいか？』

団塊世代が介護を頼みたい相手の比較

相手	女性	男性
配偶者	26.6	57.4
施設や病院の職員・看護師	22.5	15.1
ホームヘルパー、訪問看護師	20.7	10.4
特になし	10.8	10.1
子	13.5	5.4
子の配偶者	0.7	0.1

『もし、私が認知症になったら・・・』

- して欲しくないこと
- して欲しいこと

『もし、私が認知症になったら・・・』 (伊達市編)

◇こんなふうに住らしたい

- ・どんなところ（まち）で
- ・どんな人（家族・近所・専門職など）と
- ・どんなふうに

行方不明～予防対策実施 とその後経過

小規模を利用されているOさんの場合

【8月6日】

- 行方不明発覚、警察へ捜索願。北小金あたりの住人に『歩けなくなった』と助けを求め、保護され事業所まで車で送られてくる。『アレフまで』『伊達の高齢者の施設なんだ』と正確な場所や建物の名前などは伝えられず、自宅近くのスーパーあたりを移動中に場所を思い出し到着する。看護師による全身状態の確認、異状なく警察へ連絡、事情聴取し全身写真を撮る。
- 即時、緊急会議を行い原因究明、予防策の提案を行う。

【原因】

- 本人が認知症の状態であったが事前の散歩コース等のアセスメントを踏まえ本人自らが自身の健康増進や身体状況の確認などのために行っていたことに対する自立の尊重を重点に考えすぎていて、安全確認等を十分に行えていなかった。

【対策】

- もう一度散歩コースを本人と共に確認、付き添いを行い時間経過確認、コースの迷い処などの確認を行う。
- 本人が利用していた携帯電話の利用を再開して散歩中や一時帰宅の際、携帯電話使用を再度訓練し、常用する。
- 市役所へ確認を取り、GPS機器の貸し出しがないか確認し、レンタル等を行う。

【8月7日】

- 市役所へ事故報告を行う。
- GPS機器の確認（有と返答）。本人とGPS機器の説明を受ける。市役所より「認知症高齢者見守り事業・アイロンラベル・反射シール」の説明を受ける。本人と書類作成。
- 散歩15分コースに付き添い教えてもらう（以後、高校野球観戦のため散歩を一時中断される）。
- 一時帰宅の際、一時間おきに電話にて所在確認（以後、毎日）。

【8月8日】

- シール、GPS申請書類提出。（GPSは2週間から1か月かかる）
- 気分転換に昼食の買い物へ出かける。（この日は散歩せず、日課である事業所の前を5往復のみされる）

8月18日

- 市役所よりシールが届く。反射シールは外靴かかと外側付近に貼付、アイロンシールは外出の際被っている帽子内部へ貼付する。
- 現在、進行状況となります。緊急会議以外すべて本人に説明と同意の上、手続等も共に行っております。
- 今後は運営推進会議にて報告と推進委員と地域でどのように協力体制をとっていけるようお伝えするか話し合いを考えています。

伊達市の場合

行方不明者の搜索の仕組み（システム）

伊達市事業者協力による 高齢者等地域見守り活動

愛称 「もしかしてネット」

「もしかして」に気付く、「もしかして」を無駄にしない。



伊達市における事業者協力による 高齢者等地域見守り活動

愛称 もしかしてネット

イメージキャラクター もシカくん

◆事業開始 平成23年8月31日から

◆事業概要

高齢者が安全で安心して暮らせる地域社会づくりを進めるため、高齢者地域見守り活動の一環として、伊達市と市内で配達等をされている事業者との間で協定を締結し、次の事項について、事業者に協力していただく。

- ①高齢者の異変に気がついた場合の連絡
 - ②認知症などで行方がわからなくなった高齢者等の捜索
- * いずれも通常の業務内での協力

◆参加事業者 (H29.6.1現在)


- 〔郵便・宅配便〕 5
- 〔新聞配達〕 8
- 〔牛乳等配達〕 4
- 〔食料品配達〕 4
- 〔クリーニング等〕 6
- 〔電気、燃料、水道〕 23
- 〔金融〕 6
- 〔コンビニエンスストア〕 17
- 〔介護保険系サービス〕 36
- 〔障がい者福祉施設等〕 10
- 〔医療機関〕 1
- 〔その他のサービス〕 8

◆オブザーバー 5

伊達警察署長、西胆振行政事務組合消防本部消防長、伊達市地域包括支援センター長、伊達市社会福祉協議会会長、民生委員児童委員協議会会長


市内で配達等をされている事業者の皆様へ

高齢者の見守り活動にご協力をお願いします。



イメージキャラクター
もしかくん

愛称 **「もしかしてネット」**
「もしかして」に気付く、「もしかして」を無駄にしない。



日本は、高齢化と少子化があいまって進み、超高齢社会といわれる時代に入っています。そんな中、高齢者の孤独死や虐待などが社会問題となってきており、高齢者の方々が安全で安心して暮らせる地域社会づくりを進める必要が生じてまいりました。

このようなことから伊達市では、市内で事業をされている皆様方に、

- ①高齢者の異変に気がついた場合の連絡
- ②認知症などで行方がわからなくなった高齢者等の搜索

について、通常の業務内での協力を得られるような仕組みづくりを進め、協力をお願いすることといたしました。趣旨をご理解の上、高齢者を地域が見守れるような社会づくりの一端として何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご協力いただきたいのは、次の2点です。

- ①高齢者の異変に気がついた場合の連絡
(事業者協力高齢者異変通報ネットワーク 次項 参照)

皆様が業務で(配達や検針など)、高齢者宅を訪れたときや市内を巡回されている途中で、何らかの高齢者の異変(倒れている、虐待されている、徘徊しているなどの疑い)を感じた場合、指定先まで電話連絡をしていただくこと。

- ②認知症などで行方がわからなくなった高齢者等の搜索
(事業者協力SOSネットワーク 4項下 参照)

行方がわからなくなり警察で搜索をしている高齢者等を皆様が業務中に発見した場合、警察まで電話連絡をしていただくこと。
※ 搜索対象者の身体的特徴や服装などの情報は、伊達市から事業者の皆様へFAX、電話、メールなどでお伝えいたします。

ご協力をお願いします。

事業者協力高齢者異変通報ネットワーク(イメージ)

もしかして…異変?

倒れているのかも?

- ・チャイムを押しても反応がないけど、玄関は開いているし中からテレビの音が聞こえているんだけど…
- ・新聞が数日分たまってしまったけれど、これまでは、家を留守にする場合は事前に連絡くれたのに…

虐待されているのかも?


- ・最近あの家のおじいちゃん、服が汚れていて、アザだらけだけど…
- ・あの家玄関を開けると、ゴミが散らかっていて、最近はおしっこ臭いんだけど…

徘徊しているのかも?


- ・このおばあちゃんこの辺で見かけない顔だから声をかけたけど、名前も住所もわからないみたい…
- ・あのおじいちゃん寒い中あんな薄着で歩いているけど、あっちの方向は誰も住んでいないはず…

すぐに連絡をお願いします。

お電話はこちらまで



〇〇町の□□さんのお宅で異変です。状況は…



0142-21-7755

伊達市地域包括支援センターへ

※ 状況によっては、警察、消防署へ直接通報願います。

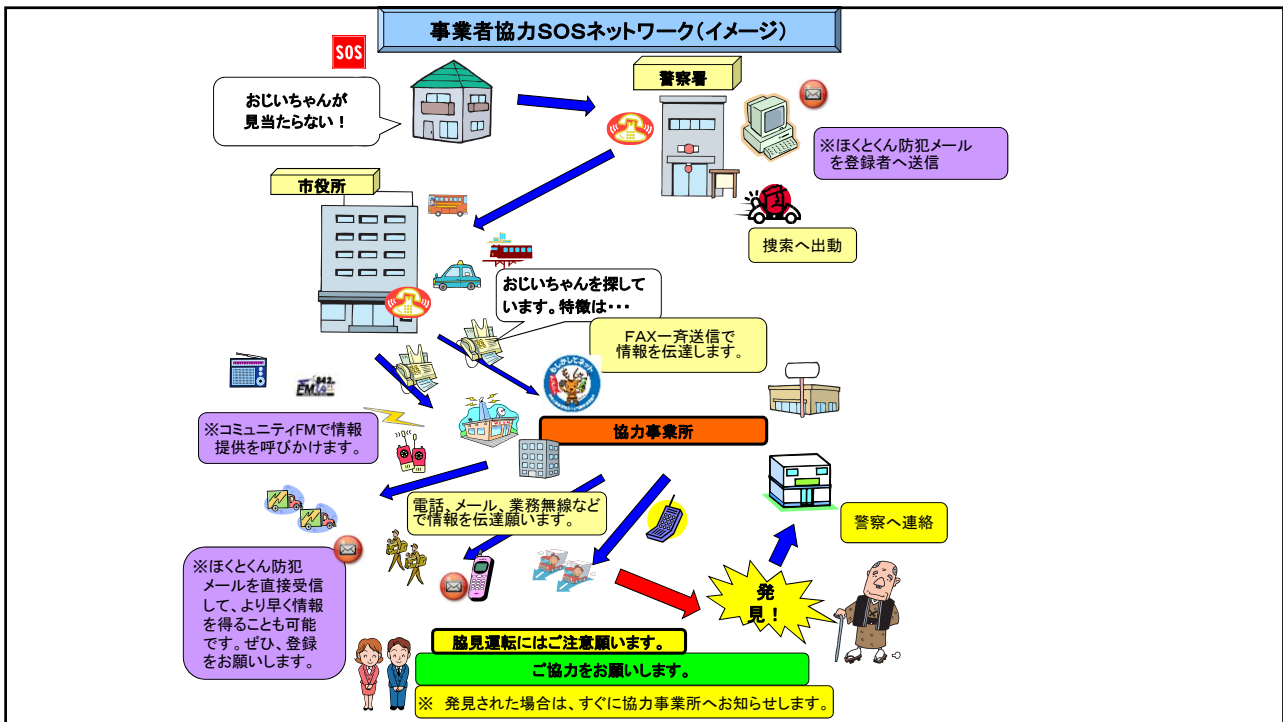
どうしよう…

? 異変のような気がするけれど、今日は日曜日だから月曜日連絡した方がいだろうか…
→ 異変に気がついた場合は、すぐに連絡をください。夜間、休日も対応します。

? 異変かな? 考え過ぎかな? 判断に迷います。
→ もし異変だったら、命がひとつ救われるかもしれません。迷ったら連絡をお願いします。

? 連絡してもいいけれど、何事もなかった場合、相手方に迷惑なのではないか…
→ 連絡をいただき何事もなかったとしても、気になさらないでください。相手方にはどなたから連絡があったかはお知らせしません。

ご協力をお願いします。



イメージキャラクター もしかくん



角型ステッカー 100mm×30mm



丸型ステッカー 丸型マグネット
直径83mm

*ステッカーの制作には、北海道の地域支え合い体制づくり事業費補助金を活用

『もしかしてネット』実績

年度	何らかの 異変等		うち『もしか関係』		
			異変通報	徘徊疑い	SOS (FAX)
H23	17件	10件	2件 (亡1)	2件	6件
H24	21件	14件	13件 (亡1)	0件	1件
H25	20件	9件	4件 (亡0)	2件	3件
H26	18件	14件	12件 (亡0)	0件	2件
H27	17件	11件	7件 (亡0)	4件	3件
H28	26件	7件	3件 (亡0)	4件	2件

『もしかしてネット』通報例

例① 配食業者からの通報

お弁当を配達に行ったが何度チャイムを押しても出ない、本人の携帯にかけたところ、電話に出たが口が回っていない感じだった。

結果

市職員が本人宅を訪問。本人の様子から受診の必要性があると判断し、救急車を要請し病院へ搬送。脳血管疾患と診断され入院となった。

例② 業者からの通報

本人と事前に約束していた時間に訪問したが、不在の上、新聞が郵便受けに残されたままだったので、心配になり通報。

結果

一人暮らし世帯として登録のあった市内在住の長女へ連絡し本人の携帯へ連絡してもらったところ、寝室でテレビを大音量で見っていたため訪問に気付かなかったとのこと。

『もしかしてネット』 通報例

例③ 民生委員からの通報

玄関に新聞がたまっており、ドアをノックしても応答がない。

結果

各方面に連絡を試みたものの、安否確認ができなかったため、別に住む子から自宅のドアを壊して警察が入ることの同意を得て、警察がドアを壊して入ったところ、既に死亡していた。

例④ ケアマネジャーからの通報

サービス提供のために自宅に向かうも鍵がかかっており、カーテンも閉まっている。電話にも呼び鈴にも応答がない。と担当ケアマネより通報。

結果

親族の合鍵を使用し自宅内に入ったところソファー前にうつ伏せになっているところを発見。病院へ搬送。



伊達市における事業者協力による高齢者等地域見守り活動 もしかしてネット参加事業者の皆様へ

日頃から、「もしかしてネット」に御協力いただき誠にありがとうございます。高齢者が安心して暮らせるまちづくりのため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

お願い

ちょっとした異変を感じたらすぐに連絡をお願いします。

事業者の皆様におかれましては、これまでも高齢者の見守りに多大なるご協力をいただき、異変通報をさせていただいておりますが、少しでも「いつもと違う」「様子がおかしい」などの異変を感じたら、すぐに地域包括支援センターに連絡をしていただきますようお願いいたします。



お知らせ

ステッカー類は傷んでいませんか？

「もしかしてネット」のステッカーで、傷んでしまったものはありませんか？汚れてしまったり、色が薄くなってしまったものは交換をお願いします。お電話でご連絡ください。すぐにお届けいたします。新たにマグネットタイプも用意しましたので、こちらもお申し付けください。

※ ステッカー類の貼付は、あくまでも任意です。



伊達市健康福祉部高齢福祉課高齢者福祉係

電話 0142-23-3331(内302・303) FAX0142-21-5147



美唄市の場合

おれんじカフェ ひびば

悩みや相談を、お茶を飲みながら
ゆったりとした時間の中で話ませんか。
認知症カフェ「おれんじカフェひびば」は
そんな場所です。



開催日 毎週（火）11時～15時

住所 美唄市大通西1条北1丁目1-12
（空知クリーニング工場向かい）

電話番号 62-5580（開催日のみ）

問合せ先 美唄市役所高齢福祉課
62-3156



「おれんじカフェぴば」 の開設について

< 認知症カフェ開設の目的 >

- ① 認知症を抱えているご本人、支えているご家族の話を聴く場所
- ② 早期発見、早期治療に繋げていく入口としての場所
- ③ 地域の方々が病気の理解、支援方法等を知ってもらえる場所
- ④ 地域が求めるニーズを知る場所、人材育成の場所

主な内容

- ・ 毎週（火）に開催し特にプログラムはなく、ゆっくりとした環境（音楽を流したり、お茶を飲みながら）で話をします。開催時間中であれば出入りも自由です。
- ・ 認知症のことを心配している地域の人々、よく理解をしようと思っている人々に対し理解していただくための研修会（認知症サポーター講座等）や、予防、早期発見の方法や体操等の活動の実施。

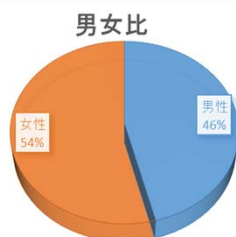
おれんじカフェぴばの1年間の利用人数について



※ 下記の数値は平成27年9月30日オープンから平成28年9月27日までの1年間の人数となっています。

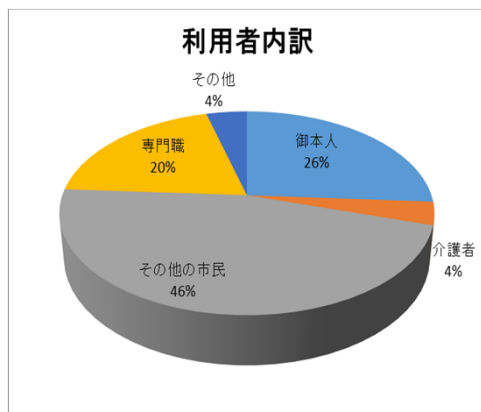
① 1年間の利用人数: 839人 (1日の平均利用人数: 15.8人)

② 男女比について



	人数
男性	366人
女性	453人

③利用内訳について



	人数
御本人	207人
介護者	29人
その他の市民	368人
専門職	158人
その他	33人

※ H27年9月27日～10月27日までは利用者の内訳をカウントしていなかったため人数には入れておりません。

利用者の方からの声

- 話ができるのがうれしい。
- 色々な人と出会えるのが良い。
- 利用すると気分的に違う。話せる場所かめるのはいい。
- 来て良かったと思える。
- 初めは知人からの紹介で来たが、今は知人から連絡をもらってここに来るのが楽しみになっている。
- 来ることが楽しみ



おれんじカフェぴばで 一緒に活動しませんか



協力していただける方は・・・

アンケート9に名前・住所・電話番号を記載してください。

ボランティアとして協力していただくためには

- ・本日の研修の受講 と

- ・11月27日に開催される

認知症サポーター養成講座の受講 が必要です。

本日の講演会、認知症サポーター養成講座を受講していただき、ボランティアとして活躍することができます。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



チーム（地域）で合意形成しているか？

チーム（地域）で共有しているか？

チーム（地域）で同じ方向を向いているか？

又は、そうなるようそれぞれ（地域住民／国民）が
努めているか？

チーム（地域）ケア（人を支援する仕組み）

にとってもっとも大切な考え方

顔の見える関係から
何かあった時にお互い思い描ける
関係へ
その輪を広げてゆきたい

どんな形でもいい
自分たちの地域（くに）は
自分たちで創り育む

どんな障害があっても
笑い飛ばせる関係があるといい

『まとめ』

3つの大切なこと

- ① 『自分のことは自分ですること』
- ② 『互いに助け合うこと』
- ③ 『社会と繋がっていること』

「帰りたい」

あなたはどうか対応しますか？

「帰りたい」⇨帰宅願望・帰宅欲求なんかじゃない

「帰りたい」って言う人がいます。「帰りたい」のは山々だけど、「帰れない」ことも薄々感じています。本当は、「帰れない」けど「帰りたい」という気持ちをただわかって欲しいだけなのです。みんな「帰りたい」でも「帰れない」。人は本当の気持ちを言いません。本当は「私の気持ちをわかって」「帰りたい」気持ちをわかってもらえなくて悲しいのです。そう言っているだけ。一度その気持ちを受け止めて心から聴いてあげて下さい。「帰りたい」という気持ちと、「帰りたくなる」私の周りの私の扱いに気づいて下さい。洗濯物をたたむことで誤魔化さないで下さい。料理をつくることで誤魔化さないで下さい。レクや療法をして誤魔化さないで下さい。ドライブや買い物で誤魔化さないで下さい。「帰りたい」気持ちの裏に耳を傾けて欲しいだけです。「帰りたいですね、わかりました」と一言でいいから、気持ちを受け止めて下さい。まずは「はい、わかりました」と、ただそれだけでいい、わかって下さい。

皆さんお疲れ様でした。
ありがとうございました。